

〔慶長見聞録案紙〕^上慶長九年五月七日、下野守殿^{忠吉}相州底倉江御湯治、其後同州宮城野江御入湯。

〔大猷院殿御實紀〕^{十六}寛永七年十二月、大御所今年相模國底倉の湯治し給ふ思召にて、神奈川御旅館作事奉行を、新庄宮内少輔直房に命せられ、目付仙石大和守久隆、底倉の御旅館構造の命蒙り、子右近久邦ともに檢點にまかる、されど夏の御病にて御事停廢せられき。

武藏國
小河内温泉

〔武藏濱路〕^四多摩郡

小河内温泉 總名原と云 日本橋より青梅迄拾二里、青梅より原迄八里、

此出湯は、熊野權現夢想と云、打身切きず、腫物立所に愈ゆ、但し服忌あるものを入湯をゆるさず、

〔新編武藏風土記稿〕^{二十七}原村

熊野社^{除地一段七畝十八歩}、温泉場^{當社除地ノ湯壺四方内ニタ、エタル湯平生ハ少シク温}ニ熱セリ、是ヲ汲來リ居風爐トナシテ浴セリ、^{許リ虫湯際ニアリ}、^{○中略}目湯^{社ヨリ四五間西}ニアリ、^{川ノ際}

常陸國
袋田温泉

〔常陸紀行〕^二袋田村の瀑布、其高さ四十有餘丈にして、本國中第一の勝景たり、^{つきをた}月居山下に在り、此山一名月折とも書けり、昔時野内大膳なるもの、居城なりといへり、又温泉あり、本國中の名湯たり、京都香川氏の一本堂藥選にも見えて、其名高しといへども、近時人知るものまれなり、

飛驒國
下呂温泉

〔飛州志〕^{土地}下呂温泉

同郡同郷湯島村ニアリ、本朝上古ノ温泉三處アリ、所謂攝州有馬、野州草津、飛州湯島是也、國説ニ云ク、天曆年中、此地ノ山中ニ初テ温泉涌出セリ、地名ヲ湯峯ト云フ、然ルニ文永二年乙丑冬十月、湯峯ノ温泉出止テ、山下今ノ地ニ涌出セリ、是則益田川ノ河原ニシテ、常ニ温湯ノ涌出ルニテハ、ナシ、人浴セントスルトキ、河原ノ砂石ヲ除キテ、僅ニクボメヌレバ、其所ニ忽チ温湯出ル也、尤清